OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	令和三年度　退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2022, 62, p. 173-194
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/87424
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

令和三年度
退職教員略歴・主要業績

飯倉（いいくら）　洋一（よういち）	教授	国文学･東洋文学講座(日本文学)
金水（きんすい）　敏（さとし）	教授	国文学･東洋文学講座(国語学)
鄭（ちょん）　聖汝（そんよう）	講師	留学生専門教育

飯倉洋一　履歴・職歴

【履歴】

（学歴）

1975年３月　長崎県立長崎西高等学校卒業
1975年４月　九州大学文学部入学
1980年３月　九州大学文学部文学科国語学国文学専攻卒業
1980年４月　九州大学大学院文学研究科修士課程国語学国文学専攻入学
1983年３月　九州大学大学院文学研究科修士課程国語学国文学専攻修了
1983年４月　九州大学大学院文学研究科博士後期課程国語学国文学専攻進学
1985年３月　九州大学大学院文学研究科博士後期課程国語学国文学専攻中退
1998年９月　博士（文学）（九州大学）

（職歴）

1985年４月　九州大学文学部助手
1985年４月　山口大学教養部講師
1990年４月　山口大学教養部助教授
1994年４月　国文学研究資料館文献資料部助教授（併任）（～９月）
1994年９月　文部省内地研修員（九州大学文学部）（～1995年3月）
1996年４月　山口大学人文学部助教授
2000年４月　山口大学人文学部教授
2001年４月　大阪大学大学院文学研究科助教授
2004年４月　大阪大学大学院文学研究科教授
2016年４月　ハイデルベルク大学日本学科客員教授（～７月）
2022年３月　停年退職

（受賞）

1993年５月　第3回柿衛賞受賞（主催　柿衛文庫）
2010年10月　第6回ゲスナー賞　目録・索引部門　銀賞（主催　雄松堂書店）

【研究業績】

（著書）

1、『叢書江戸文庫13　佚斎樗山集』（単著）（総453頁）国書刊行会　1988年10月

2、『学海日録』全11巻　別巻1　共編　岩波書店　1992年7月
3、『秋成考』（翰林書房）（単著）（総395頁）翰林書房　2005年2月
4、『秋成文学の生成』（共編）（総414頁）森話社　2008年2月
5、『大阪大学附属図書館藏和古書目録第二稿』（単編）（総36頁）大阪大学附属図書館　2009年2月
6、『蘆庵文庫目録と資料』（日本書誌学大系98）（共著）（総800頁）青裳堂書店　2009年10月
7、『大阪大学附属図書館所蔵忍頂寺文庫目録』（単編）（総136頁）大阪大学附属図書館　2011年3月
8、『なにわ古書肆　鹿田松雲堂　五代のあゆみ』（上方文庫39）（共編）（総250頁）和泉書院　2012年11月
9、『上田秋成　絆としての文芸』（阪大リーブル39）（単著）（総258頁）大阪大学出版会　2012年12月
10、『小沢蘆庵自筆　六帖詠藻　本文と研究』（共著）（総778頁）和泉書院　2017年2月
11、『近世文学史研究2　十八世紀の文学』（単編）（総150頁）ぺりかん社　2017年6月
12、『アプリで学ぶくずし字　くずし字学習アプリKuLAの使い方』（単編）（総92頁）笠間書院　2017年2月
13、『江戸怪談文芸名作選 二 前期読本怪談集』（校訂代表）（総390頁）国書刊行会　2017年7月
14、『文化史のなかの光格天皇 —— 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』（共編）（総393頁）勉誠出版　2018年6月
15、『日本文学研究ジャーナル 第7号　近世後期小説の作者・読者・出版』（共編）（総128頁）古典ライブラリー　2018年9月
16、『翻刻『三獣演談』』（共著）（総45頁）大阪大学文学研究科日本文学国語学研究室　2019年3月
17、『真山青果とは何者か？』（共編）（総271頁）文学通信　2019年7月
18、『古典は本当に必要なのか？否定論者と議論して本気で考えてみた』（共著）（総217頁）文学通信　2019年9月

（研究成果報告書）

1、『明和九年刊書籍目録所載「奇談」書の研究（1999 ～ 2001年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書）』（73頁）2002年3月

2、『忍頂寺文庫・小野文庫の研究（2005年度大阪大学大学院文学研究科共同研究報告書）』（90頁）2006年3月
3、『「奇談」書を中心とする近世中期上方仮名読物史の構築（2004 ～ 2006年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書）』216頁 2007年3月
4、『忍頂寺文庫・小野文庫の研究2（2006年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書）』（総84頁）2007年3月
5、『テクストの生成と変容（大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究研究成果報告書）』（総204頁）大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座 2008年3月
6、『忍頂寺文庫・小野文庫の研究3（2008年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書）』（総42頁）2009年3月
7、『忍頂寺文庫・小野文庫の研究4（2009年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書）』（総73頁）2010年3月
8、『上田秋成の和文作品本文の生成と変容についての研究 上田秋成『文反古』注釈稿』（2007-2009年度 科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書）』2010年3月
9、『忍頂寺文庫・小野文庫の研究5（2010年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書）』（総50頁）2011年3月
10、『国文学研究資料館公募共同研究 近世風俗文化学の形成 —— 忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺』（総651頁）国文学研究資料館 2012年3月
11、『近世上方文壇における人的交流の研究2010-2013年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究（B）研究成果報告書）』（総574頁）2014年3月
12、『日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築クラスター成果報告書（2014年度）』（総36頁）2015年3月

（学術論文）

1、「秋成の「私」の説について」『語文研究』第50号（pp.43-51）九州大学国語国文学会 1980年12月
2、「「自然」の意味 —— 秋成の理想と現実 —— 」『語文研究』第52･53号（pp.191-203）九州大学国語国文学会 1982年6月
3、「翻刻『やまと怪異記』上」『江戸時代文学誌』第3号（pp.83-107）柳門舎 1983年6月
4、「秋成における「憤り」の問題 —— 『春雨物語』への一視点 —— 」『文学』第54巻5号（pp.72-85）岩波書店 1984年5月
5、「『呵刈葭』上篇と宗武・宇万伎の「仮字問答」」『文献探究』第15号（pp.1-9）文献探究

の会　1985年2月

6、「宇万伎の古道論」『文献探究』第16号（pp.73-75）文献探究の会　1985年9月

7、「翻刻『やまと怪異記』下 —— 附・解題 —— 」『江戸時代文学誌』第4号（pp.176-198）柳門舎　1985年11月

8、「秋成と分度 —— 『安々言』試論 —— 」『文学』第57巻7号（pp.88-102）岩波書店　1986年7月

9、「春雨物語序文考」『文学研究』第84輯（pp.47-59）九州大学文学部　1987年2月

10、「「海賊」考」『江戸時代文学誌』第6号（pp.2-13）柳門舎　1989年3月

11、「身のうさは人しも告じ ——「浅茅が宿」作中歌補注 —— 」『文献探究』第28号（pp.8-11）文献探究の会　1991年9月

12、「常盤潭北論序説 —— 俳人の庶民教化 —— 」『江戸時代文学誌』第8号（pp.46-62）柳門舎　1991年12月

13、「いぶかしき世のさま ——「二世の縁」私見 —— 」『読本研究』第6輯（pp.1-19）渓水社　1992年9月

14、「奇談から読本へ」『日本の近世　12〈文学と美術の成熟〉』（pp.269-306）中央公論社、1993年5月

15、「本居宣長と妙法院宮」『江戸文学』12号（pp.102-113）ぺりかん社、1994年7月

16、「大田南畝の在坂生活」『論集日本文学5　共同研究上田秋成とその時代』（pp.152-170）勉誠社　1994年11月

17、「妙法院宮サロン」『論集日本文学5　共同研究上田秋成とその時代』（pp.301-323）勉誠社　1994年11月

18、「潭北の教訓本 ——『野総茗話』をめぐって」『雅俗』第2号（pp.142-156）雅俗の会　1995年1月

19、「小品物語の世界 ——「月の前」「剣の舞」「鴛央行」「背振翁伝」 —— 」『國文学解釈と教材の研究』第40巻第7号（pp.44-48）学燈社　1995年6月

20、「和文の思想 —— 雅俗論の視点 —— 」『季刊文学』第6巻第3号（pp.71-79）岩波書店　1995年7月

21、「「血かたびら」の文体」『雅俗』第3号（pp.129-147）雅俗の会　1996年1月

22、「西原晁樹資料 —— 立花織衛宛書簡五通 —— 」『山口国文』第20号（pp.1-7）山口大学人文学部国語国文学会　1997年3月

23、「『近世畸人伝』と伴蒿蹊」『歴史読本』第42巻第6号（pp.218-223）新人物往来社　1997年6月

24、「語りと命禄 —— 富岡本「天津処女」論 —— 」『雅俗』第5号（pp.156-174）雅俗の会 1998年1月

25、「西原晁樹の文事 —— 著述解題 —— 」『山口国文』第21号（pp.91-100）山口大学人文学部国語国文学会　1998年3月

26、「富岡本「血かたびら」の〈語り〉について」『近世文藝』第68号（pp.39-48）日本近世文学会　1998年6月

27、「人麿・宗椿・無腸 —— 「ぬば玉の巻」の言説構造 —— 」『富士フェニックス論叢 中村博保教授追悼特別号』（pp.249-261）富士フェニックス短期大学　1998年11月

28、「近世小説に伏在する中古物語 —— 秋成を例に —— 」『國文学解釈と教材の研究』第44巻2号（pp.82-88）学燈社　1999年2月

29、「老曽の森の物語 —— 「目ひとつの神」私見 —— 『語文研究』第86・87号（pp.64-76）九州大学国語国文学会」1999年6月

30、「「長物がたり」の系譜 —— 春雨物語論のために —— 」『江戸文学』第22号（pp.105-118）ぺりかん社　2001年2月

31、「『文反古』の成立 —— 稿本から刊本へ —— 」『雅俗』第9号（pp.30-47）雅俗の会 2002年1月

32、「「奇談」の場」『語文』第78号（pp.22-32）大阪大学国語国文学会　2002年5月

33、「秋成と天覧 —— 『神代がたり』試論 —— 」『待兼山論叢（文学編）』第36号（pp.1-19）大阪大学大学院文学研究科　2002年12月

34、「「秋山記」の再検討 —— 「めめしさ」の意味するもの —— 」『江戸文学』第28号（pp.69-84）ぺりかん社　2003年5月

35、「祇徳の立場 —— 「誹諧古学」について —— 」『國文学解釈と教材の研究』第48巻第8号（pp.59-65）学燈社　2003年6月

36、「談義本が描く江戸」『国文学解釈と鑑賞』第68巻12号（pp.77-85）至文堂　2003年12月

37、「「奇談」史の一齣」『日本古典文学史の課題と方法　漢詩　和歌　物語から説話　唱導へ』（pp.571-595）和泉書院　2004年3月

38、「上方の「奇談」書と寓言 —— 『垣根草』第四話に即して —— 」『上方文藝研究』第1号（pp.65-75）『上方文藝研究の会』2004年5月

39、「日本近世〈小説〉と寓言」『古典文学研究』第26輯（pp.151-164）韓国古典文学会 2004年12月（韓国語）

40、「日本近世小説史の新領域 —— 「奇談」という書物たち —— 」『韓国日本学会第70回学術大会　予稿集』（pp.550-556）2005年2月

41、「人はばけもの」――『西鶴諸国はなし』の発想――」『国文学解釈と鑑賞　別冊　西鶴　挑発するテキスト』（pp.97-104）至文堂　2005年3月

42、「浮世草子と読本のあいだ」『国文学』第50巻6号（pp.51-57）學燈社　2005年6月

43、「斉物論（翻刻・解題）」『雅俗文叢』汲古書院　2005年12月

44、「大江文坡と源氏物語秘伝――〈学説寓言〉としての『怪談とのゝ袋』冒頭話――」『語文』第84・85輯（pp.108-118）大阪大学国語国文学会　2006年2月

45、「「菊花の約」の読解」『大阪大学文学研究科広域文化表現論講座共同研究研究成果報告書』（浅見洋二編）（pp.6-15）2006年3月

46、「翻刻　忍頂寺文庫蔵　七代目団十郎の配り本二種」（共著）『忍頂寺文庫・小野文庫の研究』（pp.39-46）2006年3月

47、「翻刻　忍頂寺文庫蔵　七代目団十郎の配り本三種――『遊行やまざる』『旅中腰かけざる』『ないぶびぞ』――」（共著）『忍頂寺文庫・小野文庫の研究2』（pp.5-8）2007年3月

48、「怪異と寓言――浮世草子・談義本・初期読本――」『西鶴と浮世草子の研究』第2号（pp.117-129）笠間書院　2007年11月

49、「初期読本」『読本（よみほん）事典』（pp.14-23）笠間書院　2008年2月

50、「秋成和文の生成――『文反古』の生成――」『秋成文学の生成』（pp.251-272）森話社　2008年2月

51、「開かれたテクストへ――刊本『文反古』への変容――」『テクストの生成と変容』（pp.116-126）大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座　2008年3月

52、「『春雨物語』論の前提」『国語と国文学』85巻5号（pp.1-11）東京大学国語国文学会　2008年5月

53、「『文反古』の版下筆者」『上方文藝研究』第5号（pp.54-60）上方文藝研究の会　2008年5月

54、「未紹介〔秋成消息文集〕について」『文学』第10巻第1号（pp.77-88）岩波書店　2009年1月

55、「濫觴期絵本読本における公家・地下官人の序文」『江戸文学』40号（pp.51-60）ぺりかん社　2009年5月

56、「尼子経久物語としての「菊花の約」」『日本のことばと文化―日本と中国の日本文化研究の接点―』（pp.60-71）渓水社　2009年10月

57、「秋成における「いつはり」の問題――『春雨物語』を中心に――」『日本研究』13（pp.153-165）高麗大学日本研究センター　2010年2月

58、「秋成における古今集序の引用 —— 『ぬば玉の巻』から『春雨物語』まで」『国文学解釈と鑑賞』75巻8号（pp.38-45）ぎょうせい　2010年8月

59、「交誼と報謝 —— 秋成晩年の歌文 —— 」『語文』第95輯（pp.12-22）大阪大学国語国文学会　2010年12月

60、「秋成の晩年と浄瑠璃 —— 『胆大小心録』・『春雨物語』を中心に —— 」『近松研究所紀要』第21号（pp.1-10）園田学園女子大学近松研究所　2010年12月

61、「中井履軒・上田秋成合賛鶉図について」（共著）『懐徳堂研究』第3号（pp.3-15）大阪大学文学研究科懐徳堂研究センター　2012年2月

62、「『近代歌謡考説』とその周辺」『国文学研究資料館公募共同研究　近世風俗文化学の形成 —— 忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺』（pp.159-167）国文学研究資料館　2012年3月

63、「近世文学の一領域としての「奇談」」『日本文学』第61巻第10号（pp.24-35）日本文学協会　2012年10月

64、「和文」『上田秋成研究事典』（pp.181-192）笠間書院　2015年1月

65、「王昭君詩と大石良雄 —— 『新斎夜語』第一話の「名利」説をめぐって —— 」『語文』第105輯（pp.1-11）大阪大学国語国文学会　2015年12月

66、「木越治氏へ —— 「菊花の約」の尼子経久は論ずるに足らぬ人物か」『リポート笠間』60（pp.9-12）笠間書院　2016年5月

67、「前期読本における和歌・物語談義」『近世文学史研究』2（pp.86-99）ぺりかん社　2017年6月

68、「妙法院宮真仁法親王の文芸交流 —— 『妙法院日次記』を通して、和歌を中心に —— 」『文化史のなかの光格天皇 —— 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』（pp.338-360）勉誠出版　2018年6月

69、「『作者評判千石篩』考」『日本文学研究ジャーナル』第7号（pp.9-20）古典ライブラリー　2018年9月

70、「秋成の学問は創作とどう関わるのか」『古典文学の常識を疑うⅡ　縦・横・斜めから書き換える文学史』（pp.200-203）勉誠出版　2019年9月

71、「『絵本太閤記』「淀君行状」と『唐土の吉野』」『語文』114輯（pp.1-12）大阪大学国語国文学会　2020年8月

72、「未来に活かす古典 ——「古典は本当に必要なのか」論争の総括と展望」『古典の未来学』（pp.341-361）文学通信　2020年10月

73、「近世中期における「テクスト遺産」と「作者」」『古典は遺産か？日本文学におけるテ

クスト遺産の利用と再創造』（pp.91-103）勉誠出版　2021年10月

74、「雅俗往来のなかの秋成 —— 上方の人的交流のなかで」『アナホリッシュ國文学』第9号（pp.57-67）2021年11月

（書評・時評）

1、「紹介　五所美子著『歌人 上田秋成』『語文研究』第65号、（pp.69-69）1988年6月

2、「書評　山下久夫『本居宣長と「自然」』」『日本文学』第38巻4号（pp.56-57）日本文学協会　1984年4月

3、「書評　美山靖著『秋成の歴史小説とその周辺』」『国語と国文学』第72巻3号（pp.64-68）東京大学国語国文学会　1995年3月

4、「書評　日野龍夫『服部南郭伝攷』」『国文学解釈と教材の研究』第44巻6号（pp.173-173）学燈社　1995年5月

5、「回顧と展望（日本近世）」『史学雑誌』第105編第5号　史学会　1996年5月

6、「書評　長島弘明『秋成研究』」『國語と國文学』第79巻第1号（pp.65-pp.69）東京大学国語国文学会　2002年1月

7、「平成一三年度国語国文学界の展望 近世（小説）」『文学・語学』175号（pp.87-90）全国国語国文学会　2003年2月

8、「学界時評　近世」『国文学 解釈と教材の研究』第50巻9号（pp.162-163）学燈社　2005年9月

9、「学界時評　近世」『国文学 解釈と教材の研究』第51巻3号（pp.170-171）学燈社　2006年3月

10、「学界時評　近世」『国文学 解釈と教材の研究』第51巻10号（pp.164-165）学燈社; 2006年9月

11、大輪靖宏編『江戸文学の冒険』『週刊読書人』2687号（p5）株式会社読書人　2007年5月

12、「学界時評　近世」『国文学 解釈と教材の研究』52巻3号（pp.148-149）學燈社　2007年3月

13、「書評　稲田篤信『名分と命禄 —— 上田秋成とその時代 ——』」『国語と国文学』第84巻第6号（pp.75-79）東京大学国語国文学会　2007年6月

14、「学界時評　近世」『国文学　解釈と教材の研究』第52巻11号（pp.160-161）學燈社　2007年9月

15、「紹介　西田耕三『主人公の誕生』『国文学 解釈と教材の研究』第52巻12号　學燈社

2007年10月

16、「学界時評　近世」『国文学　解釈と教材の研究』（pp.178-179）53巻4号　学燈社　2008年3月

17、論評「高野秀晴「談義本に見る宝暦期江戸民衆教化の一端」『日本教育史研究』第27号（pp.27-30）日本教育史研究会　2008年8月

18、書評「高田衛著『春雨物語論』『日本文学』59巻7号（pp.78-79）日本文学協会　2010年7月

19、書評「大高洋司『京伝と馬琴〈稗史もの〉読本様式の形成』『図書新聞』2011年1月

20、「生涯・万物の霊・主人公 —— 西田耕三の「起源」 —— 」『文学・芸術・文化（近畿大学文芸学部論集）』19巻2号（pp.57-65）近畿大学文芸学部　2008年3月

21、「根ケ山徹・尾崎千佳編『山口大学所蔵和漢古典籍分類目録』」『語文』100・101輯　2013年2月

22、「高橋明彦『楳図かずお論』」『西日本新聞』　西日本新聞社　2015年10月

23、「書評 高田衛著『秋成　小説史の研究』『日本文学』第64巻第5号（pp.78-79）日本文学協会　2015年5月

24、「新刊この一冊『小津久足の文事』菱岡憲司著」『中央公論』第131巻第4号（pp.228-229）中央公論新社　2017年3月

（辞典・目録・図録項目執筆）

1、『西日本未刊善本展』（項目執筆）九州大学国語学国文学研究室　1985年11月

2、『朝日日本歴史人物事典』（項目執筆）「青木永章」ほか59項目　朝日新聞社　1994年11月

3、『俳文学大辞典』（項目執筆）「潭北」ほか4項目　角川書店　1995年10月

4、『日本古典文学研究史大事典』（項目執筆）「談義本」の項　勉誠出版　1997年11月

5、『日本古典文学大事典』（項目執筆）「落語」ほか7項目　明治書院　1998年6月

6、『特別展観没後200年記念 上田秋成』（項目執筆）総32頁　京都国立博物館　2010年7月

7、『上田秋成 没後二〇〇年記念』（編集・項目執筆）総104頁　日本近世文学会　2010年10月

8、「仙台忍頂寺家所蔵資料目録」（共著）『調査研究報告』第31号、総23頁　國文学研究資料館　2011年3月

9、『和歌文学大辞典』（項目執筆）古典ライブラリー　2014年12月

10、『浮世草子大事典』（コラム執筆）笠間書院　2017年10月

（その他）

1、「先哲叢談聚議（二）五井持軒」『雅俗』第2号（pp.208-220）雅俗の会　1995年1月

2、「大村蘭台」『西国大名の文事』（pp.140-143）葦書房　1995年3月

3、「刊記をめぐるシンポジウム」（共著）『調査研究報告』第16号（pp.11-46）国文学研究資料館　1995年3月

4、「常盤潭北論序説 —— 俳人の庶民教化 —— 」『柿衛文庫友の会ニュース』第18号　柿衛文庫　1993年9月

5、『キーワード 100 古典文学の術語集』「戯作」「俗」の項目『国文学解釈と教材の研究』第40巻9号　学燈社　1993年9月

6、「西原晁樹のこと」『県史だより』第85号（pp.2-3）福岡県地域史研究所　1996年5月

7、「談義本」（『時代別日本文学史事典近世編』（pp.78-86）東京堂出版　1997年6月

8、「市史抄片～編さんだより～ 43　西原晁樹と『なるべし』」『市報やながわ』472号　柳川市　1998年7月

9、「西原晁樹」「富士谷成章・御杖」『新柳川明証図会』（pp.126-127、pp.258-259）柳川市　2002年9月

10、「危機に立つ文系基礎学」『西日本新聞』　西日本新聞社　1999年5月1日

11、「私の研究　ひとつの注釈から」『YU-information』48号　山口大学広報委員会　2000年3月

12、「【報告】韓日学術フォーラム「日本文学、その可能性」基調講演のコメントおよび報告概要「奇談史の可能性」『愛媛大学教育学部紀要　第Ⅱ部人文・社会科学』第36巻第2号（pp.100-113）2004年2月

13、「忍頂寺文庫・小野文庫の研究について」『2005年度大阪大学大学院文学研究科共同研究報告書 忍頂寺文庫・小野文庫の研究』（pp.3-6）2006年3月

14、「（影印）『荘子絵抄』解説と影印」『「奇談」書を中心とする近世中期上方仮名読物史の構築』（pp.75-126）2007年3月

15、「享保以後大坂出版書籍目録による吉文字屋市兵衛刊行年表稿（享保～安永）」（共著）『「奇談」書を中心とする近世中期上方仮名読物史の構築』（pp.206-216）大阪大学大学院文学研究科　2007年3月

16、「「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」の展開」『2006年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書　忍頂寺文庫・小野文庫の研究2』（pp.5-8）「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」共同研究グループ・国文学研究資料館　2007年3月

17、「秋成と住吉御田植神事」『やそしま』創刊号（pp.34-37）上方文化芸能協会　2007年11月

18、「秋成研究の道のり」（木越治との対談）『秋成文学の生成』（pp.8-30）森話社　2008年2月

19、「上田秋成と蒹葭堂」『木村蒹葭堂顕彰会会報』第8号（pp.1-2）2008年12月

20、「（座談会）上田秋成」（長島弘明、木越治、稲田篤信）『文学』隔月刊、第10巻第1号（pp.2-30）岩波書店、2009年1月

21、「モノとしての古書こそ」『日本古書通信』961（pp.13-14）日本古書通信社　2009年8月

22、「テクストが生まれる時、テクストが変わる時 —— 共同研究「テクストの生成と変容」をふりかえって ——」『テクストの生成と変容』（pp.3-8）大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座　2008年3月

23、「韓国で進む日本文学研究」『産経新聞』4面　産経新聞社　2011年10月20日

24、「忍頂寺文庫・小野文庫の研究 —— 二〇一〇年度 ——」『忍頂寺文庫・小野文庫の研究5』（pp.5-7）「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」共同研究グループ・国文学研究資料館　2011年3月

25、「上方文藝研究の現在（8）上方文藝研究の会」『上方文藝研究』第8号、『上方文藝研究の会』（pp.108-109）2011年6月

26、「逆境こそチャンス」『西鶴と浮世草子の研究』第5号（pp.350-351）笠間書院　2011年6月

27、「ニース・シェレ美術館所蔵『北斎漫画』についての調査報告」（共著）『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』第56号（pp.79-82）『京都市立芸術大学』　2012年3月

28、「秋成と「神医」谷川兄弟」『柿衞文庫企画展　神医と秋成　谷川家資料にみる』（pp.39-42）公益財団法人柿衞文庫　2012年3月

29、「江戸文・雅俗・上文 —— 研究同人誌と私」『雅俗』第11号（pp.105-107）雅俗の会　2012年6月

30、「上田秋成と懐徳堂」記念会だより（財）懐徳堂記念会 2013年

31、*La Manga de Hokusai conservee Au Musee Cheret de Nice*（共著）『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』第57号（pp.59-62）京都市立芸術大学　2013年3月

32、「西鶴読解の壁 ——「ワークショップ　西鶴をどう読むか」報告を兼ねて」『リポート笠間』51（pp.21-28）笠間書院　2013年11月

33、「コラボは楽し —— くずし字解読支援ソフトの開発」『みをつくし』55号（pp.1-2）放送大学大阪学習センター　2014年11月

34、「学生にお勧めの一冊　歌舞伎入門」『みをつくし』57号（pp.5-5）放送大学大阪学習センター　2015年

35、「国際シンポジウム「読みたい！日本の古典籍」報告」『和本リテラシーニューズ』第2号（pp.14-15）日本近世文学会　2016年7月

36、「KuLAの誕生」『アプリで学ぶくずし字　くずし字学習アプリKuLAの使い方』（pp.86-88）笠間書院　2017年2月

37、「ごぞんじですか？第103回　くずし字学習支援アプリKuLAについて」『専門図書館』281号（pp.41-44）専門図書館協議会　2017年1月

38、「自著を語る 番外編『アプリで学ぶくずし字　くずし字学習支援アプリKuLA（クーラ）の使い方』」『日本の古本屋メールマガジン』221　日本の古本屋事業部　2017年2月

39、「十八世紀の文学」『近世文学史研究』2（pp.3-5）ぺりかん社　2017年6月

40、「古典籍を開くために」『国文研ニューズ』53号（pp.1-1）国文学研究資料館　2018年10月

41、「巻頭言　江戸の「奇談」書」『みをつくし』69（pp.1-1）放送大学大阪学習センター　2018年5月

42、「上田秋成と令和」『西日本新聞』（7面）西日本新聞社　2019年5月

43、「インタビュー 現代人と古典・古文の間の「距離感」」『待兼山文學』13（pp.6-21）待兼山文學会　2020年11月

44、「「投企する古典性」としての「ないじぇる芸術共創ラボ」」『時の束を披く』（pp.102-103）国文学研究資料館　2021年2月

45、「なぜ古典が必要か論理化を」『西日本新聞』　西日本新聞社　2021年7月11日

履歴・業績　金水　敏

【履歴】

昭和54（1979）年３月31日　東京大学文学部卒業
昭和54（1979）年４月１日　東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学
昭和56（1981）年３月31日　同修了
昭和56（1981）年４月１日　同博士課程入学
昭和57（1982）年３月31日　同退学
昭和57（1982）年４月１日　東京大学文学部国語研究室助手着任
昭和58（1983）年４月１日　神戸大学教養部専任講師着任
昭和62（1987）年４月１日　大阪女子大学学芸学部専任講師着任
昭和63（1988）年４月１日　大阪女子大学学芸学部助教授着任
平成２（1990）年４月１日　神戸大学文学部助教授着任
平成９（1997）年10月１日　大阪大学文学部助教授着任
平成12（2000）年４月１日　大阪大学大学院文学研究科助教授着任
平成13（2001）年４月１日　大阪大学大学院文学研究科教授着任
令和２（2020）年12月14日　日本学士院会員
　　大阪大学栄誉教授称号授与

【主な業績】

金水敏の研究成果を、その研究対象から分類すると、

a. 存在表現
b. テンス・アスペクト
c. 受動文
d. 指示詞
e. 終助詞・感動詞
f. 敬語・授受表現・受益表現
g. 格助詞・係助詞・情報構造
h. 古典籍の翻刻・注釈・解題
i. 役割語・翻訳
j. 文章・文体・語彙・文献史
k. 文法理論・意味論

といった領域に及ぶ。

以下に、編著書を中心に文献リストを掲げ、上記の分類を記号で示すこととする。

1. 山口明穂・近藤泰弘・金水　敏・古田啓（1986）『音訓篇立索引』古辞書音義集成第二十巻，汲古書院.【h】
2. 金水　敏・田窪行則・木村英樹（1989）『指示詞』日本語文法セルフ・マスター・シリーズ，4，くろしお出版.【d】
3. 金水　敏（1991）「解題編　第I部　蘭学資料」大阪女子大学附属図書館（編）『大阪女子大学蔵　蘭学英学資料選』pp. 3–34，大阪女子大学.【h】
   ※1992年の「豊田實賞」（日本英学史学会）を受賞.
4. 金水　敏・田窪行則（1992）『指示詞』日本語研究資料集，ひつじ書房.【d】
5. 益岡隆志・仁田義雄・郡司隆男・金水　敏（1997）『文法』岩波講座 言語の科学，5，岩波書店（総頁数：178頁。金水は「国文法」pp. 119–157を執筆）.【k】
6. Kinsui，Satoshi (1997) “The influence of translation on the historical development of the Japanese passive construction,” *Journal of Pragmatics* 28: 759–779, Amsterdam, Elsevier Science.【c】
7. 金水　敏（1998）「方便智院聖教目録（翻字・解題）」高山寺典籍文書調査団（編）『明恵上人資料第四』高山寺資料叢書第十八冊，pp. 387–473，東京大学出版会.【h】
8. 金水　敏（1998）「計算機による古典籍資料の組版･印刷について」『訓点語と訓点資料』記念特輯，pp. 12–27，訓点語学会.【h】
9. 金水　敏・今仁生美（2000）『意味と文脈』現代言語学入門，4，岩波書店（総頁数：260頁）.【k】
10. 金水　敏・工藤真由美・沼田善子（2000）『時・否定と取り立て』日本語の文法，2，岩波書店（総頁数：254頁。金水は第1章「時の表現」pp. 3–92を執筆）.【b】
11. 金水　敏（2006）『日本語存在表現の歴史』総ページ数：327頁，ひつじ書房.【a】※新村出賞受賞.
12. 金水　敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』もっと知りたい！ 日本語，7，岩波書店.【i】
13. 金水　敏（編）（2007）『役割語研究の地平』くろしお出版.【i】
14. 金水　敏・乾　善彦・渋谷勝己（共編著）（2008）『日本語史のインタフェース』シリーズ日本語史，4，岩波書店（総頁数：253頁。金水の執筆担当は第1章、第7章）【i，j】
15. 金水　敏･廣坂直子･岡﨑友子（2008）「金剛寺蔵長寛三年写『観無量寿経』影印･訓読･

解題」国際仏教大学院大学学術フロンティア実行委員会（編）『金剛寺蔵観無量寿経・無量寿経優婆提舎願生偈註』（非売品）pp .3–104，国際仏教大学院大学学術フロンティア実行委員会.【h】

16. 金水　敏（編）（2011）『役割語研究の展開』くろしお出版（総頁数：319頁。金水の執筆担当は導入、第1章、第13章（共著））【i】
17. 金水　敏・高山善行・衣畑智秀・岡﨑友子（共著）（2011）『文法史』シリーズ日本語史，3，岩波書店（総頁数:239頁。金水の執筆担当は「第1章　文法史とは何か」（1–17）「第3章　統語論」（77–166）「第5章 直示と人称 5.1人称に関わる現象の歴史的変化」（191–202））.【e，g，f】
18. 金水　敏（編）（2014）『〈役割語〉小辞典』総頁数270ページ，研究社.【i】
19. 金水　敏・高田博行・椎名美智（共編）（2014）『歴史語用論の世界 —— 文法化・待遇表現・発話行為』総頁数：320頁，ひつじ書房.【f】
20. 金水　敏（2014）『コレモ日本語アルカ?:異人のことばが生まれるとき』総頁数240ページ，岩波書店.【i】
21. 金水　敏・田中ゆかり・岡室美奈子（共編）（2014）『ドラマと方言の新しい関係:『カーネーション』から『八重の桜』、そして『あまちゃん』へ』総頁数:103頁，笠間書院.【i】
22. Kinsui, Satoshi (2017) *Virtual Japanese: Role Language*，総頁数：162頁，大阪大学出版会.（大阪大学リポジトリ OUKAで公開）【i】
    ※11の英訳版.
23. 金水　敏･田中ゆかり･児玉竜一（共編）（2018）『時代劇･歴史ドラマは台詞で決まる！:世界観を形作る「ヴァーチャル時代語」』総頁数135ページ，笠間書院.【i】
24. 金水　敏（編）（2018; 2019; 2020，2021）『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書（1）～（4）』大阪大学、私家版.（大阪大学リポジトリOUKAで公開）【i】

鄭聖汝講師　履歴・研究業績

学歴

1975年 3 月　國立慶尚大學校・師範大學外國語教育學科入学
1979年 2 月　國立慶尚大學校・師範大學外國語教育學科日本語教育専攻卒業
1989年 3 月　啓明大學校大學院・日語日文學科日語學専攻入学
1991年 2 月　啓明大學校大學院・日語日文學科日語學専攻修了
1995年 4 月　神戸大学大学院・文化学研究科文化構造専攻博士後期課程入学
1999年 3 月　神戸大学大学院・文化学研究科文化構造専攻博士後期課程修了

職歴

1980年 3 月　安城女子高等學校教師
1982年 9 月　甘泉高等學校教師
1984年 3 月　龜尾商業高等學校教師
1986年10月～ 1988年 3 月
　　岐阜大学教育学部 留学（文部科学省教員研修留学生）
1988年 4 月　孝令高等學校教師
1991年 3 月　大邱専門大學非常勤講師
2000年11月　日本学術振興会外国人特別研究員・大阪大学
2003年 4 月　大阪大学文学研究科・留学生専門教育担当講師

主要業績

Ⅰ 著書・共編著

1. 『韓日使役構文の機能的類型論研究 —— 動詞基盤の文法から名詞基盤の文法へ ——』, くろしお出版. 2006年. pp.1-304.（単著）
2. 『한국어 연구의 새 지평』(韓国語研究の新地平), ソウル: 太學社. 2010年. pp.1-383.（李廷玟と共編）
3. 『体言化理論と言語分析』, 大阪大学出版会. 2021年. pp.1-563.（柴谷方良と共編）

Ⅱ 論文

1. 「일한 신체어 비교연구 —— 어휘소「テ（手）」와「손」의 다의적 의미구조 ——」(日韓身体語比較研究 —— 語彙素「テ（手）」と「SON」の多義的意味構造 ——), 『言語

研究』8輯，大邱言語学会．1991年．pp.75-111.
2. 「『が』と『は』の意味、その背景と形態：認知と表現の観点から」，『世界の日本語教育』3号，国際交流基金日本語国際センター．1993年．pp.121-145.
3. 韓国語の心理動詞構文の意味と語用論 —— 感情・感覚形容詞とその派生動詞を中心に —— 」，『神戸英米論叢』11号，神戸英米学会．1997年．pp.1-24.
4. 「韓国語における動詞の自他 —— 結合価変化のない構文はなぜ可能なのか —— 」，『神戸言語学論叢』2号，神戸大学文学部言語学研究室．2000年．pp.37-66.
5. 「「させる」の選択とパラメータ」，『日本學報』44輯，韓國日本學会．2000年．pp.149-163.
6. 「자동사의 수동화와 태범주 —— 한일어 비교의 관점에서 —— 」（自動詞の受動化と態範疇 —— 韓日語比較の観点から ——），『言語科學研究』19輯，大邱:言語科學会．2001年．pp.263-290.
7. “Japanese and Korean Causatives Revisited.”, N. M. Akatsuka & S. Strauss (eds.) *Japanese/Korean Linguistics 10*, CSLI Publications & SLA: California. 2002年. pp.32-49.（Masayoshi Shibataniと共著）
8. 「韓国語の自動詞とヴォイス —— 自発と受身の連続性 —— 」，影山太郎・岸本秀樹（編）『日本語の分析と言語類型：柴谷方良教授還暦記念論文集』，くろしお出版．2004年．pp.319-335.
9. 「意味を基盤とした韓日使役構文の分析 —— 非規範的使役構文を手がかりとして —— 」，『大阪大学大学院文学研究科紀要』44巻，大阪大学．2004年．pp.91-139.
10. 「分裂自動詞性の本性について —— 類型論の観点から見た非対格性の仮説とその問題点 —— 」，『大阪大学大学院文学研究科紀要』45巻，大阪大学．2005年．pp.19-58.
11. 「규범적 사동구문과 비규범적 사동구문」（規範的使動構文と非規範的使役構文），『語學研究』41-1，Seoul大學校言語教育院．2005年．pp.49-78.
12. 「状態述語のふるまいから見た分裂自動詞性 —— 動格言語の分裂主語システムと韓国語の自動詞システムの証拠から —— 」，KLS 25，関西言語学会．2005年．pp.33-43.
13. “On Grammaticalization of Motion Verbs: A Japanese-Korean Comparative Perspective.”, Naomi Hanaoka McGloin and Junko Mori (eds.) *Japanese/Korean Linguistics 15,* CSLI Publications & SLA: California. 2007年. pp.21-40.（Masayoshi Shibataniと共著）
14. 「大阪城は誰が建てたか？ —— 使役連続性を超えて：日韓対照の観点から —— 」，『神戸言語学論叢: 西光義弘教授還暦記念号』5号，神戸大学文学部言語学研究室．2007年．

pp.21–33.

15. 「使役と受身の曖昧性はどこからくるか？ —— 韓国語の動詞接辞*-i/-hi/-li/-ki*の機能を求めて —— 」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』48巻, 大阪大学. 2008年. pp.97–166.
16. 「使役連続性を超えて —— 形式と意味の対応関係を改める —— 」, Peter E. Hook and Yoshimi Miyake (eds.) *Proceedings of International Symposium: Language and Literature & Language and Power*, 秋田大学. 2008年. pp.20–30.
17. "The influence of genre on the occurrence of the compound verb: A case study of Hindi, Marathi, Japanese and Korean.", KLS 29, 関西言語学会. 2009年. pp.56–66.（Pardeshi Prashant, Peter E. Hookと共著）
18. 「非意図的事象と他動詞構文 —— 『所有』か『責任』か、それとも？ —— 」, 『日本語文法』9–2, 日本語文法学会. 2009年. pp.53–69.
19. 「非意図的な出来事における他動詞使用と『責任』意識: 日・韓・マラーティー語の対照を通じて」, 岸本秀樹（編）『ことばの対照』, くろしお出版. 2010年. pp.175–189.（吉成祐子・パルデシ プラシャントと共著）
20. 「직접사동과 간접사동 , 무엇이 문제였나? —— 새로운 이론적 모델의 제안을 위하여 —— 」（直接使役と間接使役、何が問題だったのか —— 新しい理論的モデルの提案のために ——）, 『한국어 연구의 새 지평』（韓国語研究の新地平）, 太學社. 2010年. pp.113–150.
21. 「韓国語における他動性 —— プロトタイプ理論から見たカテゴリーの内部構造と非規範的構文 —— 」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』50巻, 大阪大学. 2010年. pp.91–152.
22. 「非意志自動詞と『可能』 —— 日本語と韓国語の観点から —— 」, 『日本語言文化研究第二輯（上)』, 延辺大学. 2012年. pp.453–460.（円山拓子と共著）
23. 「現代日本語における『人がある』存在文の成立条件」, 『待兼山論叢 日本学編』46号, 大阪大学. 2012年. pp.1–22.（黒川尚彦と共著）
24. 「非意図的な出来事と『損失構文』 —— 使役構文との相違について —— 」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』53巻, 大阪大学. 2013年. pp.105–122.
25. 「中国語における消失を表す存現文について」, 『汉日语言对比研究论丛』（中日言語対照研究論叢）4辑, 汉日对比语言学研讨会（中日対照言語学研究会）. 2013年. pp.58–71.（井川壽子と共著）
26. 「제주방언의 '－ㄴ다' 와 관련 어말형식의 대립에 대하여」（済州方言の *-nta*と関連語末形式の対立について）, 『方言學』17号, 韓國方言學会. 2013年. pp.105–141.
27. "Usage of Transitive Verbs in the Depiction of Accidental Events in Japanese and

Korean", Seungho Nam, Heejeong Ko, and Jongho Jun (eds) *Japanese/Korean Lingustics 21*, CSLI Publications & SLA: California. 2014年. pp.231-245.（Yuko Yoshinari, Prashant Pardeshiと共著）

28. "Genitive Modifiers: *Ga/no*Conversion Revisited.", Mikio Giriko, Naonori Nagaya, Akiko Takemura, & Timothy J. Vance (eds) *Japanese/Korean Lingustics 22*, CSLI Publications & SLA: California. 2014年. pp.355-394.（Masayoshi Shibatani, Bayaerdulengと共著）
29. 「使役構文の形成と結合価再考 —— 日本語と韓国語の証拠から ——」,『大阪大学大学院文学研究科紀要』55巻, 大阪大学. 2015年. pp.139-173.
30. "Causative Constructions in Japanese and Korean.", Prashant Pardeshi and Taro Kageyama (eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*, De Gruyter Mouton. 2018年. pp.137-172.（Masayoshi Shibataniと共著）
31. "Nominal based nominalization.", Shin Fukuda, Mary Shin Kim, and Mee-Jeong Park (eds.) *Japanese/Korean Linguistics 25*, CSLI Publications & SLA: California. 2018年. pp.63-88.（Masayoshi Shibataniと共著）
32. 「韓国語における疑問文の形成と体言化 —— 慶南・済州方言のコピュラ疑問文と動詞述語疑問文を手掛かりに ——」,『言語研究』157号, 日本言語学会. 2020年. pp.1-36.
33. 「体言化と名詞句用法標識の関係 —— 歴史的発達の観点から見た日本語の「の」と韓国語*kes*の比較を通して ——」, 鄭聖汝・柴谷方良（編）『体言化理論と言語分析』, 大阪大学出版会. 2021年. pp.195-244.
34. 「韓国語の体言基盤体言化 —— いわゆる属格 *-s*の修飾用法と名詞句用法について ——」, 鄭聖汝・柴谷方良（編）『体言化理論と言語分析』, 大阪大学出版会. 2021年. pp.245-293.
35. 「体言化と名詞句用法標識の関係 —— 韓国語*kes*の歴史的展開を中心に ——」,『大阪大学大学院文学研究科紀要』61巻, 大阪大学. 2021年. pp.175-209

Ⅲ 予稿集論文・報告書論文・辞書項目など

1. 「韓日語比較：使役他動詞構文 —— パラメータと統語的具現化について ——」,『日本言語学会第115回大会予稿集』, 日本言語学会. 1997. pp.240-245.
2. 「자동사의 수동문 —— 한일 양언어의 비교의 관점에서 ——」（自動詞の受動文 —— 韓日両言語の比較の観点から ——）,『2000年度言語科學会夏季全國學術発表大会 —— 言語教育과 対照言語學 ——』, 言語科學会. 2000年. pp.81-86.

3. 「언어유형론의 관점에서 본 능격성과 비대격성가설」(言語類型論から見た能格性と非対格性の仮説),『2005年度冬季全國学術発表大会 —— 21世紀の言語と言語教育 ——』, 言語科學会. 2005年. pp.195-208.
4. 「使役構文の拡張と語用論的条件」,『日本語用論学会第9回大会発表論文集』2号, 日本語用論学会. 2006年. pp.219-222.
5. 「自他交替とサセ」,『台湾における日本文学・国語学の新たな可能性』, 大阪大学大学院文学研究科東アジア国際フォーラムプロジェクト（編）. 2006年. pp.73-89.
6. 「非意図的な出来事における他動詞使用と「責任」意識 —— 日・韓語の対照を通じて ——」,『日本言語学会第135回大会予稿集』, 日本言語学会. 2007年. pp.46-51.（吉成祐子・パルデシ プラシャントと共著）
7. 「'을 것'이 나타내는 추측의 성질에 대하여 —— 의문문의 제약의 관점에서 ——」('ulkes'が表す推測の性質について —— 疑問文の制約の観点から ——),『財団法人韓國言語學会2008年冬季學術大会資料集』. 2008年. pp.91-101.（金善美・田窪行則・千田俊太郎と共著）
8. 「비의도적 사태의 타동사구문에 대하여 —— 한국어와 일본어의 관점에서 ——」(非意図的事態の他動詞構文について —— 韓国語と日本語の観点から ——),『財団法人韓國言語學会2008年冬季學術大会資料集』. 2008年. pp.129-141.
9. "Where does the ambiguity between causative and passive come from?: an investigation on the functions of Korean verbal suffixes *-i/-hi/-li/-ki*.", Tokusu Kurebito(ed.) *Ambiguity of Morphological and Syntactic Analyses*. Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa(ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies. 2008年. pp.43-101.
10. 「非意図性と他動性の相関関係：意味的他動性と統語的自他のはざまで」,『日本語文法学会第11回大会発表予稿集』. 2010年. pp.83-93.（吉成祐子と共著）
11. 「한국어는 DO-language인가? —— 실험결과에서 보여지는 일본어, 마라티어와의 차이를 통하여 ——」(韓国語はDO-languageか？ —— 実験結果から見られる日本語･マラーティー語との相違を通して ——),『社団法人韓國言語學会2010年冬共同學術大会発表論文集』. 2010年. pp.59-69.
12. 「『今の私がある』と歴史的属性用法」,『日本語文法学会第12回大会予稿集』, 日本文法学会. 2011年. pp.123-129.（黒川尚彦と共著）
13. 「ナル型言語と他動性 —— 実験調査による日本語・韓国語・マラーティー語の相違を通して ——」,『アジア諸言語における他動性と非規範的構文に関する記述的・理論的・

実証的研究』科学研究費助成事業研究成果報告書，大阪大学（研究代表者：鄭聖汝）．2012年．pp.131-153.

14.「非意図的な出来事と損失構文 —— 理論と実証の両面からの検討 —— 」，『アジア諸言語における他動性と非規範的構文に関する記述的・理論的・実証的研究』科学研究費助成事業研究成果報告書，大阪大学（研究代表者：鄭聖汝）．2012年．pp.154-177.

15.「속격이란 무엇인가? —— 체언화사로서의 분석 —— 」（属格とは何か —— 体言化辞としての分析 —— ），『言語的多様性과 多文化時代의 辭典』韓國辭典学会・韓國言語類型論學会2016年夏季學術大会．漢陽大學校．pp.129-153.（柴谷方良と共著）

16.「使役」，『日本語学大辞典』日本語学会．東京堂出版．2018年．pp.454-456.

Ⅳ 科学研究費助成事業研究成果報告書

1.『アジア諸言語における他動性と非規範的構文に関する記述的・理論的・実証的研究』平成21年度 —— 23年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（課題番号21520400）．2012年．pp.1-185.

2.『他動性のプロトタイプ理論と類型論的仮説に関する理論的・実証的研究』平成24年度 —— 26年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（課題番号24520426）．2015年．pp.1-389.

Ⅴ 学位論文

1.『일본어 어휘소「手」의 다의구조연구』（日本語語彙素「手」の多義構造研究），啓明大學校大學院，碩士論文．1991年2月．pp.1-76.

2.『他動性とヴォイス（態） —— 意味的他動性と統語的自他の韓日語比較研究 —— 』，神戸大学大学院，博士論文．1999年3月．pp.1-241.